

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2020
Spring-Summer No. 39



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

地域とともに
未来をつくる



岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2020
Spring-Summer No. 39

published by



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



〔表紙写真〕

三井 栄 教授

04-11 【特集】地域とともに未来をつくる

岐阜大学地域科学部 地域政策学科 地域政策講座 三井 栄 教授

岐阜大学教育学部 家政教育講座 大藪 千穂 教授

岐阜大学応用生物科学部 生産環境科学課程 応用植物科学コース 田中 貴 助教

12-13 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

岐阜大学工学部 化学・生命工学科 物質化学コース 宇田川 太郎 助教

14-15 ひらけ！授業の扉

「樹木・草本植物・鳥類・昆虫・水棲生物 識別実習」

16-19 いまを駆ける！岐大生FACE

Interview 岐阜大学ブリコンサークルNairobi Fly 大野 洋嵩 さん

Interview 岐阜大学 騒屋 代表 青木 駿典 さん

20-21 Topics 岐阜大学のとりくみ Nov.2019→Mar.2020

22 岐阜大学基金

巻末 岐阜大学 生活支援金の給付について



岐阜大学 学長

森脇 久隆

学長あいさつ

岐阜大学は令和2年4月に名古屋大学と法人統合を行い、国立大学法人東海国立大学機構を形成しました。管理・運営を行う一つの法人のもとに、教育・研究を行う岐阜大学と名古屋大学がぶら下がる格好で、私どもの正式名称は国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学となります。東海国立大学機構のミッションは「国際的な競争力向上と地域創生への貢献を同時に達成する」ことであり、「勇気を持ってともに未来をつくる」人材を育成します。

東海国立大学機構への法人統合後も前段のミッションに立脚した上で、岐阜大学は「学び、究め、貢献する」「人が育つ場所」であり続ける、これが私どもの存在理念です。

岐阜大学地域科学部
地域政策学科 地域政策講座

三井 栄 教授

社会実験の成果やデータを活用し 乗鞍岳の持続可能な観光振興を目指す。

乗鞍岳で電気自動車による 社会実験を実施

私の専門は計量経済学で、経済の関係を量的に計測するために数学や統計学の手法を適用する分野です。岐阜大学に赴任して以降は、岐阜県内の景気分析やリニア中央新幹線開業による経済効果の計測などにも携わっています。岐阜県をはじめ地域経済に関する研究を続ける中で、岐阜県から平成24年に乗鞍スカイライン電気自動車（以下、EV車）乗入れ実験・研究事業への参画依頼を受けました。

岐阜県高山市と長野県松本市にまたがる乗鞍岳で、昭和48年に開通した乗鞍スカイラインは、日本

一の高所を走る山岳道路として人気を博し、毎年5月から10月の開通期間に約50万人もの観光客が訪れ、マイカーやバスで賑わっていました。しかし、自動車乗入れの激増による渋滞やスカイライン沿線

でのごみの投棄、屋外排泄などが問題となり、特別天然記念物であるライチョウや山に自生する高山植物などへの影響も深刻化しました。その結果、平成15年に乗鞍スカイラインは、長野県側の乗鞍工

乗鞍岳マイカー規制マップ





コーラインと同時に車両乗入規制が実施されました。

規制実施後は、自然環境が改善された反面、観光客数はピーク時の3分の1以下に減少。観光に支えられていた地域経済は大きな打撃を受けました。その後も観光客の減少に歯止めがかからず、地元の観光業者には「マイカー規制の影響でお客さんが減った」という想いもありました。

そこで、環境負荷が少ないEV車の乗入れによる地域振興に向けた取り組みを試行することになりました。実験の手順は、予約申込みをした参加者に対して事前アンケートによる情報収集を行い、実験当日は、事前レクチャーとしてマナーやルールの説明を実施後、EV車を借りて乗鞍スカイラインを走行し、山頂の畳平駐車場に到着、散策を楽しんでいただくというものです。

平成24年の1年目は、参加料金を無料に。ただし、畳平駐車場では、環境保全税300円+駐車料金1,700円、計2,000円が一律にかかります。1日3組という利用枠の稼働率は105%でしたが、参加者比率は、県内が約7割と地元参加者が多く、観光振興としては課題が残りました。2年目は、窓口受付事務費に相当する1,500円を参加料金として徴収した上で、参加対象を宿泊者優先にした結果、参加

者比率は県外が6割を超え、宿泊者数も増加しました。

3年目には、事業採算性を測るため、参加料金を窓口受付事務費及び車両レンタル費に相当する6,500円に設定したところ、稼働率は22%へと大幅に下落しました。参加料金の上昇が稼働率低下の主因であり、EV車を利用して乗鞍岳へ入山するという価値が、高い参加料金を上回っていなかったと推察されます。

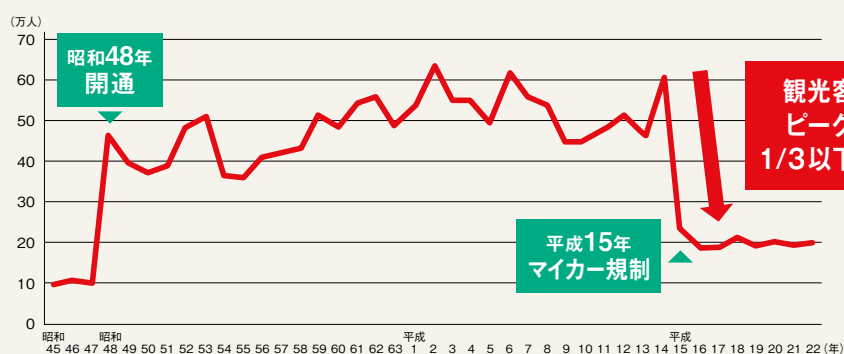
一方、環境保全については、1年目は、EV実験参加者のマナー違反に係る通報があったことを受け、2、3年目は、事前レクチャーの実施を徹底した結果、EV実験参加者のすべてからマナーを順守できたと回答を得られました。つまり、事前レクチャーの実施は、EV実験参加者のマナー違反防止に一定の効果があると考えられます。

乗鞍岳で増加を続ける 自転車来訪者に着目

平成27年からは乗鞍岳以外にも行ける周遊性を持たせたEV車乗入れ実験を実施したものの、翌平成28年は実施方法を再検討することになりました。そして急遽7月に代替的な社会実験を模索することに。私たちは「自転車来訪者」に着目しました。マイカー規制以降、乗鞍岳の観光客が減少し続ける中、自転車来訪者は増加傾向にあり、観光振興に繋げられないかと考えたのです。

自転車来訪者増加の背景には、自転車で山頂を目指して登る「ヒルクライマー」が全国的に増えていることがあります。彼らは、高い山を登りきる達成感や、仲間たちとタイムを競う楽しさを求めて全国の山々を回ります。乗鞍スカイ

乗鞍岳来訪状況



資料：高山市



ラインは、自転車で行くことができる日本一の高所を誇り、平成16年から開かれている「乗鞍スカイラインサイクルヒルクライム」という大会も人気が高まっています。

そこで私たちは、自転車来訪者が、地域にお金を落とす仕組みとして、ガチャガチャ（以下、ガチャ）を利用した社会実験を考案しました。ご存じのとおり、ガチャはカプセルトイといわれる小型自動販売機的一种で、硬貨を入れレバーを回すとカプセル入りの玩具や景品などが出てくるものです。また、ガチャは設置後、費用が掛からないことも利点です。「乗鞍だけガチャ」と題した1

回200円のガチャを、乗鞍スカイラインの入口付近と山頂に設置しました。カプセル内に乗鞍登頂の記念品缶バッジ、山頂での飲食などに使えるクーポン、自転車走行のマナー啓発チラシを入れ、近隣地域への回遊性やマナー向上を図りました。

事業者や行政のご協力もあり、約1カ月後の8月から何とか開始することができました。まずは600個のカプセルを準備し、乗鞍スカイラインの入口となる平湯峠ゲート小屋前、山頂の畳平バスターミナル、売店兼宿泊施設「銀嶺荘」の3カ所で販売を開始。入口では5種類、山頂では10種類とそれぞれ異

なる缶バッジを購入できるため2地点かつ複数回の購入に繋がると同時に、畳平バスターミナル近くにもガチャを設置したことにより、バス利用者による購入も多く、なんと1カ月半ですべてのカプセルが完売したのです。缶バッジの評判は想像以上に高く、欲しい缶バッジのために複数回ガチャを回す方もいました。そして、翌平成29年には地元事業者の方が積極的に参画してくださるようになりました。

同時に、畳平山頂のご当地グルメ企画にも取り組みました。地元の特産品である宿儺かぼちゃを使った「日本一高い味噌鍋・すくな鍋」を販売したところ、大人気に。平成30年からは畳平の事業者さんによって自主事業化され、どんぶりではなく鉄鍋での提供やおにぎりとセットでの販売、美味しそうなポスターでのPRといった工夫を凝らし、今では多くの来訪者が楽しむメニューとなっています。

ガチャ事業を始めて3年目には、持続的な地域活性化策とするため、地域事業者主体でガチャ事業に取組むことを目標に設定。飛騨

〔 小型自動販売機「ガチャ」を用いた社会実験 〕



概要

	平成28年	平成29年	平成30年
実験期間	8/21(日)～10/21(金)	7/1(土)～10/22(日) 平湯は2/28(木)まで	5/15(火)～10/21(日) 平湯は11/30(金)まで
販売個数	乗鞍 600個	乗鞍 2,124個 平湯 587個	乗鞍 2,130個 平湯 534個

ねらい

- ▶ ターゲットは乗鞍岳への自転車来訪者
- ▶ カプセルには記念バッジとマップ、マナー啓発チラシを同封
- ▶ 観光情報による回遊性向上

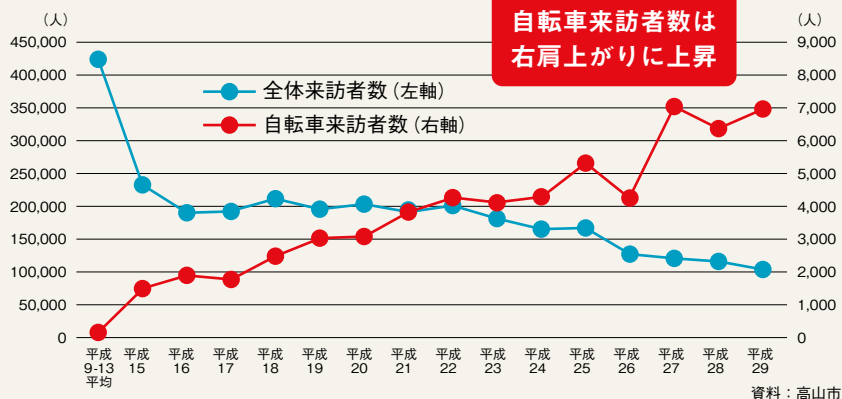
1年目は乗鞍岳畳平バスターミナル前、売店兼宿泊施設「銀嶺荘」、平湯峠ゲート小屋前に、専用の「ガチャ」を設置し、登頂記念の缶バッジ、山頂での飲食などに使えるクーポン、自転車走行のマナー啓発チラシを入れたカプセルを販売。1個200円で販売することで、近年増え続ける自転車来訪者に対する周遊性向上による観光振興と国立公園のルールの周知や自転車走行の安全啓発にも繋がった。

乗鞍観光協会のご協力により乗鞍岳関連8事業者からガチャを用いた社会実験への同意が得られ、ガチャのチラシには全事業者の紹介を掲載することができました。また、豊平の2事業者および地元団体からの申し出により、実験の準備段階における缶バッジやチラシ等のカプセル詰め作業を分担する体制が構築されることに。同時にカプセルに同梱したマップを、周辺地域への周遊性を高めた形にブラッシュアップし、自転車来訪者が汗を流せるようにと日帰り温泉施設や、ひまわり畑などの観光情報なども充実させました。リピーター向けに缶バッジのデザインを毎年更新するなど工夫を重ねた結果、継続的に年間2,600個ほどのカプセルが購入されるように。平成31年からは自主事業化され、参加事業者さんにも収益をもたらすビジネスモデルとなっています。

観光振興と自然保全の両立を 地域の方々と一緒に目指したい

新たな取り組みとして、子ども連れ家族向けの「地域探検謎解きゲーム」を平成30年に夏季限定で行いました。乗鞍岳の特定の場所でキーワードを見つけ、それをヒントに謎を解くゲームで、1セット500円で購入できます。親子で楽しめるゲームを通して、子どもたちが乗鞍岳の美しい景色や豊かな自

乗鞍岳来訪推定人数



然を発見できるというものです。実は、マイカー規制以降、観光客だけでなく近隣住民の乗鞍岳への入山数も減少しています。地域の子どもたちが乗鞍岳に訪れ、身近にある自然の魅力に気付くきっかけとなることを目指しています。

今年令和2年は、既に高山市のご協力の下、高山市内小学校へのイベントチラシ配布の準備や豊平で地域探検ゲームを常時楽しめる仕組みづくりを進めています。

さらに、自転車で日本一高い所へ到達できるヒルクライムの聖地として、社会実験「乗鞍スカイラインタイムトライアル」にも着手したいと考えています。ICチップをスタート地点の平湯峠ゲートに設置したガチャで購入し、ICチップをかざすと計測が開始され、山頂でタッチするとタイムが記録されます。そして、QRコードを読み込むと、WEBサイト上に走行タイムと

走行回数のランキングがアップされる仕組みです。自転車走行の安全性やバス事業者さんとの連携など課題もありますが、全国からさらに多くのヒルクライマーの来訪が期待できます。

地域の方々との関わりの中で、私がか切にしていることは、調査や実験にご協力いただいた分、その成果を何らかの形で地域に還元することです。これは私と一緒に調査に関わる研究室の学生たちにも伝えていきます。例えば、過疎化が進む地域では、観光施策のターゲットとなる若者ならではの視点を求められることが多いです。実際、平湯温泉では学生が関わりながらSNS映えするスポットを掲載した散策マップの制作もしています。成果を地域に還元し、お互いの信頼を積み重ね、持続可能な仕組みを構築する。観光振興には、こうした姿勢がとても大事だと感じています。

【 持続可能な観光振興をめざした取り組み 】

乗鞍岳探検ゲーム

乗鞍岳への入山者数増加の取り組みの一環として、地域振興策プロジェクト「地域探検ゲーム」を展開。1セット500円の指南書を購入し、乗鞍岳の特定の場所にあるキーワードを探しながらクロスワードを解いていく。高山市の子どもたちを中心とした親子による来訪増とシャトルバスの利用促進がねらい。



生涯でかかるお金は？ 若いうちからマネープランを考える 「人生設計ゲーム」を開発。

岐阜大学教育学部 家政教育講座

大藪 千穂 教授

フルタイムで
働く？

クルマは
買うの？

保険に入って
おこう！

家を買おう
かなあ～

岐阜大学教育学部 家政教育講座 4年

高橋 知里 さん

岐阜大学教育学部 家政教育講座 4年

梶浦 伶菜 さん

将来お金に困らないために 金融教育は小学校から学ぶべき

幼少期からお金に関心があった私は、現在は生活経済学・家庭経済学を専門とし、教育学部で家庭科教員の養成に当たる一方、金融教育について研究しています。

日本では昔から、お金の話は「人前でするもんじゃない」「子どもが心配するな」などと敬遠されてきました。ところがリーマンショック後、海外の動きを追うように、国内でも消費者教育、中でも金融教育

の重要性が注目され始めました。現在、お金に関する教育は、小中学校では家庭科、高校では家庭科と公民科で行われ、高校の家庭科で初めて生活設計を学びます。私はそれでは遅いと考えています。少子高齢化や単独世帯の増加、長寿化に伴うライフサイクルの変化を踏まえると、お金に困らず一生を送るためには、小学生のうちから生活設計の教育が必要です。「将来結婚したい」「こんな職業に就きたい」といった夢をすでに持っている年齢ですから、早すぎるという

ことはありません。

そこで平成19年にゼミ生と開発し、改良を重ねて完成したのが、小学校高学年からを対象とした教材「人生設計ゲーム」です。20代から寿命まで、10年ごとに結婚や出産など自分が望むライフイベントを選び、発生したお金の収支を計算。さらに、事故や相続といった突発的なライフイベントのカードも無作為に引きます。このように現実起きる出来事を盛り込み、リアルに人生やお金について考えることを目的としています。

人生設計ゲームとは？

「人生の最後までお金が足りるか？」をゲーム感覚でシミュレーションする教材。20代から10年ごとに区切られたボードに従って、一人で考えて進める。各年代の初めに、結婚や仕事の有無を選択し、その後10年間のクルマや住宅の購入、子どもの進学、旅行といったライフイベントを、別表から自由を選ぶ。また、不意の

事故や火災、相続などが発生する「選択不可能なライフイベント」カードもランダムに引く。その結果を年代ごとに収支計算して軌道修正しながら進めていき、最終的な残金を算出。金額によって、「ギリギリ人生」「熟慮人生」など5タイプに診断され、自分のお金に対する考え方の課題に気付くことができる。



金融についての意識を高めつつ、人間発達を伸ばすことが目的

一人で考えて進める、見た目も地味な人生設計ゲームですが、子どもたちは説明を待たずに始めるほど積極的に取り組みます。休み時間に「何歳で結婚した？」「家買った？」と盛り上がる光景も。ゲームの事前・事後に行ったアンケート結果の比較では、多くの子がゲームによって将来を具体的にイメージできたことが明らかになりました。例えば「将来お金に困らないようにしたい」という漠然とした内容が、事後には「無駄遣いをしなければ、これだけ貯まると分かった」などと変化しました。お金のお客さに気付いたことで、「家事を手伝いたい」など親への感謝や思いやりから出る言葉も見られました。

この教材の目的は「お金についての意識を高めること」でしたが、人間発達を促進する力、つまり、人生を自ら切り拓いていく力がつくことも分かりました。人間発達とは、①現実把握＝「面白かった」などの感

想、②価値の内面化＝「お母さんは節約を頑張っているな」などの気付き、③自己創造＝「私はこうしよう」などの工夫、という段階をたどりま。アンケートの回答からは人間発達の段階が着実に進んだことを示す結果が多く見受けられました。また、さらにアンケート結果を分析すると、ニュースや雑誌などから情報を得るなどの情報収集力が高い人ほど人間発達に必要な②＝価値の内面化と、③＝自己創造の段階へと進みやすいという傾向も表れました。金融に限らずすべての教育において、まず情報収集力を伸ばすことが、何より重要だといえるでしょう。

人生設計ゲームは岐阜県教育現場で評価され、現在までに、岐阜県内を中心に小学生から大学生1,000人以上を対象に実施してきました。岐阜市ではこれを基に作った「ライフプランニングゲーム」が全中学校で実施されました。昨年には、老後を計画する「エンディングプランニングゲーム」も開発。本学の授業のほか、今後定年を迎える40～50代の会社員向

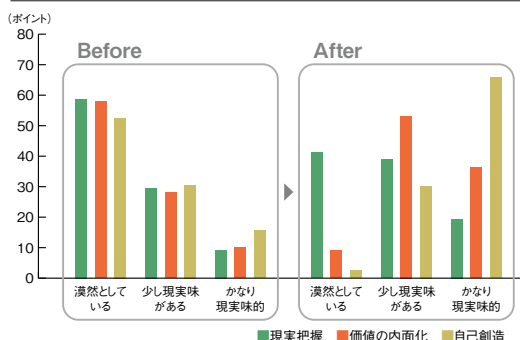


けの研修などで活用されています。これらの活動に対して、平成30年には金融庁と日本銀行から金融知識普及功労者表彰をいただきました。

人生設計ゲームが岐阜をはじめ今や他県でも評判となったのは、金融教育という新たな分野の教え方に悩む現場の先生方に応える教材となったから。そして我々自身が楽しんで開発し、子どもたちにも楽しんでもらえる教材となったからだと思います。教育には、FREEDOM(考え方の自由度)、FRESHNESS(情報の新鮮さ)、FUN(ちょっとした面白さ)の「3F」が大切です。今後も、3Fを忘れずに、地域の教育の発展に取り組みたいと思います。



ゲーム前後の「現実把握力」と「人間発達」



人生設計ゲームの効果

ゲームの事前・事後に「現実把握力」を見るアンケートを行い、ゲームの効果进行分析したところ、事前でかなり現実的なことを書いている子どもは少ないが、事後には現実的な記述が増加。「現実把握力」が高くなることが証明された。さらに、事前からかなり現実的なことを書いている生徒は「自己創造」が57ポイント増加。この結果から教育によって現実把握ができるようになった子どもは「自己創造」＝「人間発達」が進むと裏付けられた。

作物の収量データを活用した 新しい生育技術の普及を促進し 農家を支援する仕組みづくりを目指す。



岐阜大学応用生物科学部
生産環境科学課程 応用植物科学コース

田中 貴 助教

欧米で進む「精密農業」を 海津市の農家とともに研究

私の専門は作物栽培学で、学生時代には中国・雲南省に2～3年ほど住み、水環境の悪化を改善するための研究に携わりました。当時、中国の農業は、過剰な施肥によって大量の窒素が環境中に排出され、地下水や河川などが富栄養化することによる、生態系の破壊や水質汚濁が問題となっており、この状況を改善する持続的な農業の実現を目指しました。中国での研究で最も苦労したの

が、行政や農家との信頼関係の構築でした。文化の違う海外でフィールドワークを円滑に進めるためには、現地の人たちと仲良くなることが不可欠です。そのために、何度も何度も現地に足を運びました。

岐阜大学に着任してからは、中国での経験を活かして、農業に関わる研究をしたいと考えていました。そんな時、知人の紹介で知り合ったのが海津市の大規模農家です。海津市は、全国的にも珍しい大規模水田農業の先進地として知られています。日本のモデルとなり得るような農家

さんがいらっしやり、2年半ほど前から彼らと一緒にイネやムギなどの収量や品質の安定化に向けた「精密農業」に取り組むことになりました。

精密農業といっても、一般の方はあまり馴染みがないと思いますが、欧米ではすでに広く普及している農業のスタイルです。例えば、同じ田んぼや畑でも場所によって土の性質が違い、肥料のまき方にもムラが出るため、すべての作物が均一に育つわけではありません。こうした生育のムラをデータに基づいて制御するのが精密農業の考え方です。日本で

も、最近ではロボット技術や情報通信技術を活用した「スマート農業」という言葉が盛んに使われるようになり、少しずつ欧米のように精密化を実現する農業が浸透し始めているところだ。

ただ、精密農業はいきなり実践できるものではありません。北海道の大規模農家などでは、自動操舵機能が付いたトラクターなどが増えていますが、それでも農作業を楽しむというものが中心です。そうではなく、土壌の特性を把握し、生育ムラを制御して収量を上げていく仕組みは、まだほとんど導入されていないのです。その最大の理由は、「コストに見合うメリットがあるのか分からないこと」。そこで私たちは、海津市の農家さんの協力を仰ぎながら、精密農業を導入して本当にメリットがあるのかを見える化するため、実際の土壌での調査を開始したのです。

高度な生育技術を一般化し 農業の未来を明るくしたい

まずは、作物の生育や土壌にどれだけバラツキがあるのかを明らかにするところから始めました。通

常、農家さんが実施する土壌診断は、大きな田んぼの数カ所からサンプルの土を採取し、それを混ぜて調べるケースがほとんどです。しかしこれでは、全体のおおよその数値は分かっても、土壌の性質を細かく把握することはできません。そこで私たちは、10m間隔で土を採り、それぞれの場所でどの項目がどれくらいバラついていて、収量にどれほどの影響を与えるのかを調査しました。こうして得たデータをもとに、肥料を追加で入れたり、種を落とす量を増やしたりといった改善を図ることにしたのです。

ただ、こうした土壌診断は、あくまで研究の一環だからできること。実際にこれだけ多くのサンプルを調査すれば、人手と膨大な費用がかかります。そこで考えているのが、年々導入コストが下がっているドローン（無人航空機）での画像診断により、生育ムラを明らかにする方法。現在、6種類のセンサーを装着したドローンを用意し、ここで得た土壌の情報や作物の生育状況から栽培技術の開発改良に向けた研究を進めているところです。

今後、農家が入手できるデータはどんどん増えていきます。すで



にイネなどでは、収穫に使うコンバインに自動で収量を測定できる機能が付いており、こうしたデータを活用して各土壌や生育のムラを把握することが可能です。ただ、問題なのは、日本国内にはこうしたデータを上手く活用できる人が育っていないことです。欧米では農業コンサルタントが当たり前存在していますし、地方の大学が農家と繋がり、積極的に先進的な技術の普及に努めています。地域との繋がりが強い岐阜大学で研究を行うからには、私も単に論文をまとめるだけでなく、農家を支援する仕組みを一般化し、広く活用してもらいたいと考えています。そして、全国各地で担い手不足が深刻化するなど、厳しい状況が続く日本の農業を少しでも手助けすることができればと思います。



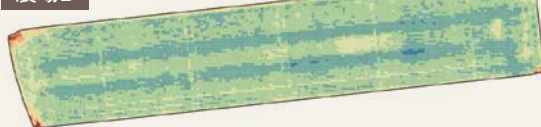
[精密農業の導入事例] ドローンによる 小麦の収量予測

ドローンによって上空から農場を撮影。その画像データをAIで解析することで農作物の生育状況を把握し、肥料の量をコントロールするなど適切な管理を行い、収量と品質の向上を図る。

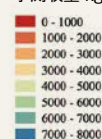
農場A



農場B



予測収量 kg/ha



ドローンでの撮影画像を解析した収量予測図。同じ農場でも場所により収量に差があることが分かる。

0 100m



パソコンの中で化学実験を行い、 幅広い分野の研究に貢献。 新しい量子化学計算プログラムも開発。

化学実験において、分子の性質や反応を調べるために用いられる「量子化学計算」。私は一貫してこの分野の研究に携わり、様々な先生との共同研究を通じて、「化学反応の中身」を解き明かしています。また、これまで計算が難しかった同位体原子などを取り扱える、新たな量子化学計算プログラムの開発にも力を注いでいます。



岐阜大学工学部 化学・生命工学科 物質化学コース
宇田川 太郎 助教

パソコン上で物質の化学反応を
シミュレーションしています。

私が研究しているのは、パソコン上で物質の性質や反応をシミュレーションし、化学現象を明らかにする「量子化学計算」という分野です。

化学の実験というと、白衣を着た研究者が、試験管やフラスコに試薬を混ぜて…というのが一般的なイ

メージだと思います。ところが、私たちの研究室では、こうした実験器具は一切使いません。パソコンに向かって作業を行うのが普段の光景です。

量子化学計算で取り扱うのは、「分子」です。分子はいくつかの原子が集まったもので、原子は、原子核と電子で構成されています。原子核は、電子に比べて非常に重く、電子が運動するタイムスケールではほとんど

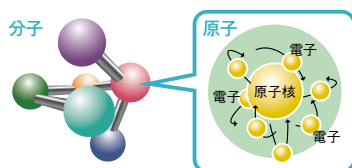
動きません。そのため、電子がどのように運動しているかが分かると、その分子の性質を理解することができるのです。電子は、「シュレディンガーの波動方程式」と呼ばれる量子力学の方程式に従って運動します。そこで、この方程式を解けば、分子を実際に取り扱うことなく、その性質や反応を調べることができるというわけです。ただ、この方程式は非常に

従来の化学実験における課題

- 複雑な実験は費用や時間がかかる
- 最もエネルギーが高い状態などの、化学反応の観測が困難
- 毒性が強い分子や不安定な分子の取り扱いが難しい

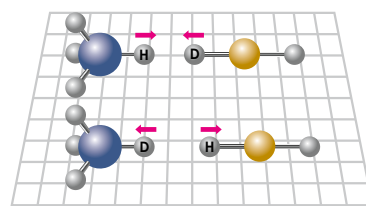
量子化学計算を用いてシミュレート

電子の振る舞いを、「シュレディンガーの波動方程式」を解いて明らかにする



実際の分子を扱わずに、分子の構造解析や反応経路の予測ができる

新たな量子化学計算プログラムの開発



宇田川助教は、一般的なソフトウェアでは計算できない同位体元素の違いを表現できる独自の理論「多成分量子力学法」を開発。計算速度の向上など、さらなるプログラムの発展に取り組む。

複雑であり、ほとんどの場合で正確に解くことができません。そこで実際には、様々な近似を用いて計算をうまく単純化し、コンピューターを活用して近似解を求め、分子の性質を調べていきます。

今では量子化学計算は、化学反応を理解するために欠かせない「ひとつの実験器具」としての地位を確立しています。1970年代頃には量子化学計算用のソフトウェアが開発され、1990年代中盤になると、「密度汎関数理論」という方法が実用化されて、少ない計算時間で精度の良い結果を得られるようになったことで、研究者の間で爆発的に広まりました。さらに普及を後押ししたのが、近年のコンピューター性能の目覚ましい進歩です。高性能のパソコンが安価で手に入るようになり、私たちのような専門家だけでなく、化学実験を行う研究者の間でも量子化学計算を結果の検証や実験前の予測に使うことが非常に多くなったのです。

実際の実験では、毒性が強いもの、壊れやすいものなど、取り扱いが難しい分子は少なくありません。また、化学反応の過程で一番エネルギーが高い状態（遷移状態）は化学反応を理解する上で極めて重要ですが、この状態は不安定なため、やはり実際の実験で観測するのは困難です。その点、量子化学計算であれば、現実では取り扱いが難しい分子の性質や

状態の変化なども、シミュレーションで細かく調べることが可能です。

量子化学計算の欠点は、計算条件を間違えていても、何かしら結果となる数値が出てしまうことです。実際の化学実験であれば失敗は明らかに目に見えますが、パソコンでのシミュレーションの場合はそうではありません。そのため、コンピューターに任せきりにせず、自分の頭で考えることが大切です。

学内の先生たちと共同研究。
新たなプログラムも開発しています。



私たちは、量子化学計算という便利なツールを活用することで、岐阜大学内で進められているさまざまな分野の研究に貢献しています。

例えば過去には、工学部の三輪洋平先生と高分子化合物に関する共同研究を行い、その論文が科学分野の学術雑誌『Nature Communications』に掲載されました。また、生命の鎖統合研究センターの安藤弘宗先生と行った糖鎖に関する共同研究も、アメリカの学術雑誌『Science』で発表されています。このほかにも、無機



化学の分野で金属錯体の物性を計算したり、有機化学の反応経路解析をしたりと、さまざまな分野の研究を支えています。

このように私は、既存のプログラムによる計算によってさまざまな実験を支援する一方で、新しい量子化学計算プログラムの開発にも取り組んでいます。中でも力を入れているのが、重水素原子のような同位体原子を解析する独自の理論「多成分量子力学法」の構築とプログラム開発です。同位体原子の解析については、一定レベルの精度で解析できるプログラムをすでに完成させたのですが、今後はこれまで得た知見を活かし、たんぱく質などの大きな分子の反応を、より効率的に計算できる新しい手法も確立したいと考えています。

新たな理論の開発はとても難しいですが、困難に直面した時に思い出するのが、かつての指導教官に言われた「やり続ければ、いつかできる」という言葉です。当たり前のことなのですが、なぜか心に強く残っています。今後もこの言葉を胸に、粘り強く研究に取り組んでいきたいと思っています。

応用生物科学部「樹木・草本植物・鳥類・昆虫・水棲生物 識別実習」

毎週火曜日は教室を出て、里山や川へ！

絶好の環境を利用して生物を体系的に理解。

里山や川へアクセス抜群の岐阜大学だからこそその魅力あふれる実習で、
野外調査技術や生物を識別する能力を総合的に養います。

岐阜大学応用生物科学部
加藤 正吾 准教授

岐阜大学応用生物科学部
十田 浩治 教授

樹木・草本植物・鳥類・昆虫・
水棲生物 識別実習

対象学生：応用生物科学部 生産環境科学課程
環境生態科学コース3年生(必修)
開講学期：前・後学期

平成16年度、旧農学部から現学部への再編に伴い設置された科目。毎週火曜日に丸一日かけて行い、大学内外のフィールドでの観察や採集、教室内での標本作製や観察記録を通して、種の判別や把握を行います。樹木・草本植物・鳥類・昆虫・水棲生物の5分野すべての生物を観察・識別する能力に加え、野外調査技術および調査を安全に行うスキルなどの習得を目的としています。

緑に囲まれ、近隣には伊自良川^{やしやがいのけ}が流れる岐阜大学。福井県の夜叉ヶ池や飛騨の山岳、琵琶湖などへも車で2時間圏内という地の利を活かし、1年を通して毎週火曜日に丸一日かけて行うのが「識別実習」です。樹木・草本植物・鳥類・昆虫・水棲生物の5分野の識別方法を、それぞれの研究者である教員や学外の専門家から学びます。

例えば昆虫分野の場合、岐阜市の名和昆虫博物館館長・名和哲夫氏の指導の下、大学周辺で昆虫を採集。その後、図鑑と見比べて種を特定し、標本作製まで行います。樹木分野では、主に大学周辺や金華山で観察を実施。そこに生える植物の種類を判別すると亜熱帯地域に分布する種類とのつながりがあることも見えてき

ます。この調査により、植生は気候だけでなく、土地の歴史によっても決まるといったことも発見できるようになります。そのほか、複数分野にまたがる「合同企画」も実施しています。毎年冬に行う通称“雪上実習”では、事前に教員が下見した安全なコースを歩き、動物の痕跡や植物を調査。必ず2人以上で行動するという鉄則や、交替で先頭を務め疲労を防ぐ歩行技術など、フィールドワークを快適かつ安全に行う装備や方法を習得できるのも授業の特長です。

識別実習で重要なのは、知識を得るだけでなく、自ら観察や採集をした生物を図鑑で調べ、どの種なのか推測する力、つまり体系的に生物世界を理解する力の獲得です。また卒

業後に環境アセスメント調査員や研究職などの進路に役立つ標本作製技術も習得できます。そして、何よりの意義は、「今の季節、あの場所にはこの植物があるだろう」などと考えられるようになること。予想した生物に現地で出会えるのはとても楽しい上、何気ない緑の風景が生き物の集合体として見えてきます。「この森にはこの虫が生息しているはず」「あの尖った木はモミの木かな」と想像できれば、生き物同士のつながり＝生物間相互作用にも思いを巡らせることができます。どんな経済活動も環境への配慮なしには行えない現代の社会で、プロのナチュラリストを目指す人にとって、それはとても大切な視点なのです。

樹木・草本植物識別実習

- 植物観察標本作製入門 [大学周辺]
- 常緑広葉樹林の植物誌 [金華山]
- 西濃の植物誌 [養老公園]
- 初秋の森林・地質と植生 [神崎川]
- 河畔植生の観察 [根尾川]
- 果実・種子の植物誌 [大学周辺]
- 落葉・樹形・冬芽の植物誌 [大学周辺]



鳥類識別実習

- 春の野鳥観察 [大学周辺]
- 干潟に入って泥まみれ [藤前干潟]
- アクア・トぎふ訪問 [河川環境楽園]
- 冬の水鳥観察 [琵琶湖]
- 冬の野鳥観察 [大学周辺]



昆虫識別実習

- 昆虫採集と種の同定・標本作製 (初夏・秋) [大学周辺]
- ※野外での昆虫採集と、硬化した標本の軟化・展翅方法・昆虫識別の基礎技術の習得。悪天候の場合は昆虫の分類体系の学習 [名和昆虫博物館]



水棲生物識別実習

- 川石の裏には虫がいっぱい [武儀川・長良川]
- 干潟に入って泥まみれ [藤前干潟]
- 低平地・水田の水棲生物 [大学周辺]
- 溪流の水棲生物 [位山演習林]
- 水棲生物の識別ポイント集中講座 [大学周辺]
- アクア・トぎふ訪問 [河川環境楽園]



合同企画

- 自然観察登山体験 [夜叉ヶ池]
夏季の緑深い山での植物・野鳥観察を中心とした総合的な自然観察
- 森林動物痕跡探索 [荘川など]
冬の森林 (雪山) 内での動物の足跡・食痕・糞等の調査



学生インタビュー

岐阜大学応用生物科学部
生産環境科学課程 環境生態科学コース
3年 信田 莉奈 さん

識別実習では、野外で見つけた生物を、どの部分に注目すれば分類できるかを学び、名前を導き出す楽しさを味わうことができました。日常生活の中でも、興味のある樹木だけでなく、水辺の生き物などにも目が向くように。雪上実習では、スキー場のゴンドラ頂上からスノーシューを履いて歩き、雪山でも半袖が快適なほど暑くなることを体感。個人ではなかなかできない経験を通じて、フィールドワーカーとして安全に行動するための装備や注意点を習得できました。



岐阜大学応用生物科学部
生産環境科学課程 環境生態科学コース
3年 野澤 秀倫 さん

生物の幅広い分野を、それぞれの専門家から深く学べることが、識別実習の大きな魅力です。幼い頃から昆虫採集が趣味だった私は、樹木の知識も学んだことで、昆虫と植物が与え合う影響など、生物間のつながりを考える視点が身に付きました。植物識別の際には、ルーペの位置を固定し対象物を動かして焦点を合わせ、体ごと向きを変え光に透かしながら、毛や葉脈を観察。知識として知っていた観察方法を、体験によって学び直し、自分のものにできました。



「チームで協力して納得のいく橋を作り、 大会で良い成績を収めたい。」

各国で開催されるブリッジコンペティションの大会で優勝することを目標に、日々活動を行う「岐阜大学ブリコンサークル Nairobi Fly」。大会ごとに異なる規定の大きさの鋼橋模型を設計・製作する。大野洋嵩さんは1年生ながらメンバーからの信頼が厚く、将来サークルを支える存在だと期待されている。



岐阜大学ブリコンサークル Nairobi Fly

ひろたか
大野 洋嵩 さん

岐阜大学工学部 社会基盤工学科1年

「岐阜大学ブリコンサークル Nairobi Fly」

岐阜大学工学部社会基盤工学科の木下幸治准教授の呼び掛けにより、同学科に所属する有志の学生が集まり、平成21年から鋼橋模型を製作するブリッジコンペティションに参加。平成23・24年の「アジアブリッジコンペティション」では総合優勝を飾る。平成31年4月に正式なサークルとして発足した。現在のメンバーは15名。昨年8月に行われた「アジアブリッジコンペティション2019」では、全7評価部門中6部門で入賞し、総合2位の成績を収める。また、資金を支援してくれる企業へのスポンサー交渉も自らで行っている。

ブリッジコンペティション

規定の大きさの鋼橋模型を、学生自身で設計・製作し、架設性、デザイン性、たわみなどを点数化して出来栄を競う。工学知識の応用力や設計・製作技術を習得するとともに、参加学生の協調性を育んだり、交流を図ることで人脈形成や問題解決能力を養うことが目的とされる。

【主な評価項目】

- 架設部門 …… 事前に製作したパーツを制限時間内に組み立て、そのスピードや正確性を競う。
- 載荷部門 …… 完成した橋に重りを載せ、たわみが規定値に収まるかを審査される。
- 美観部門 …… 橋のデザインや意匠性が評価される。
- プレゼン部門 …… 設計・製作した鋼橋模型の特徴や工夫などを発表。質疑に対する回答も審査対象となる。



平日以外にも週末や春休み、夏休みなどの休暇を返上して製作に没頭。使用する鋼材の種類から考え、材料の切断や溶接といった加工も学生自身で行っている。カナダ大会では約6mの橋を製作するため、パーツは150以上にも及ぶ。

大野さんが昨年8月に出場した日本大会。規定の重さに橋が耐えきれず、苦い結果となった。その反省から、今年のカナダ大会では、事前の載荷試験と修正に十分な時間を割く予定だ。

憧れていた橋づくりは難しいけど楽しい。 みんなで意見を出し合いながら理想の橋を目指します。

1年生から専門知識を習得し、 ものづくりの楽しさを実感。

幼い頃から橋やダム、トンネルなどの構造物を見るのが好きでした。そのため、人の生活を支えるインフラ設備の構造などを学びたいと思い、岐阜大学工学部社会基盤工学科に入学しました。プリコンサークルの活動を知ったのは、入学早々に開かれた初年次セミナーでした。学生のうちに何か土木に関わる経験をしたと漠然と考えていたところ、鋼橋模型を一から学生自身で作っているという話を聞き、迷わずサークルへの参加を決めました。

大会によって製作する橋の大きさや、評価項目、参加人数が異なり、また出場時期が重なることも多いため、サークル内で大会ごとのチームを編成しています。チームが決まると、一人ひとりが設計を考えて意見を出し合うのですが、初めは知らない専門用語ば

かりで、先輩方が話している内容が全然分かりませんでした。何とかついていこうと教科書を借りて勉強したり、先輩に聞いたり、とにかく必死でしたね。ほかにも設計図を書くためのCADや解析ソフト、パーツとなる鋼材を加工するための工作機械などの使い方を学び、1年生のうちから専門的な知識や技術を身に付けることができました。

私たちが目指すのは、軽くて丈夫、そして見た目も美しい橋。それらすべてを叶える橋を作るのは難しいですが、メンバーと相談して少しずつ形になっていくのは楽しいです。何より、苦勞して橋が出来上がった時の達成感は気持ち良いですね。

サークルを牽引して 大会での優勝を目指したい。

今の目標は、カナダで開かれる大会で優勝すること。昨年10月にルール

が発表され、私は全体の進行管理を担当しながら、全力で製作に取り組んでいます。今回の大会の評価項目で特に比重が高いのが、重さによって橋が変形する「たわみ」の数値をいかに小さくできるかです。設計上では上手くいっていても、実際に作ってみると思い通りにいかないことがほとんど。仲間と試行錯誤しながら構造を見直すなど何度も修正をしています。また、たわみ以外にも、組み立てのスピードや橋の見た目の美しさなど、評価の観点は様々。そのため、大会当日までに試作を繰り返して、本番では納得のいく橋を作って優勝したいと思っています。昨年、先輩方はアジア大会で準優勝という素晴らしい成績を残されました。その背中は大きいですが、必ず追いつきたい。そして、このサークルを引っ張っていける存在になれるよう、これからも努力を重ねていきたいです。



指導教員の木下幸治准教授は、「設計通りにいかない時に、原因を探り改善策を考えることは、とても大切なこと。それを学生のうちに経験しておくことは、社会人になった時に大きな強みになると思います」と話す。さらに、「海外の大会にも出場しているので、現地の学生と交流してグローバルな視野も広げてほしい」と期待を寄せる。

岐阜大学工学部 社会基盤工学科防災コース

木下 幸治 准教授



◀昨年8月アジア大会でリーダーを務めた4年生の深見亮介さん(右)は、大野さんを「物事を相手に分かりやすく説明する能力が非常に高い。異なる意見もしっかり取り入れることができるので、次の代を安心して任せられる存在」と評価する。

「チーム全員の気持ちを一つにまとめて “どまつり”で上位に進出したい。」

地域の民謡を取り入れたBGMと、それに合わせた演舞を各地の祭りなどで披露する岐阜大学 騒屋。

よさこいの祭典「どまつり」のファイナルコンテスト進出を目指し、週2回の練習を重ねる。代表を務める青木駿典さんは、100名近くのメンバー全員の意識を高めるため、それぞれの気持ちを尊重したコミュニケーションを心掛けている。

岐阜大学 騒屋
代表

しゅんすけ
青木 駿典 さん

岐阜大学工学部 社会基盤工学科 環境コース2年

「岐阜大学 騒屋」

平成23年に有志の学生がよさこい同好会「岐大走乱ズ」を創立。平成24年に「岐阜大学 騒屋」に改名。現在は全学部の1・2年生約100名が在籍している。特徴は、岐阜の民謡や方言を取り入れた岐阜らしいよさこい。毎週水曜・日曜日の活動日に、曲班、振り付け班などに分かれ、踊りの練習や衣装制作などを行う。県内外のイベントに出演するほか、他大学や社会人サークルとも積極的に交流を図り、技術の向上を目指す。

につぼんど真ん中祭り

毎年8月、名古屋市の久屋大通公園などをメイン会場にして行われる踊りのコンテスト。通称「どまつり」。国内外から200チーム以上が参加し、来場者数は約200万人を超える。各チームが、地元の民謡を取り入れたオリジナル楽曲に合わせて演舞を披露し、地域の個性を表現する「どまつり性」と踊りの技術や衣装の芸術面などの「エンターテインメント性」を競う。一次審査は、40人以上で地方者を有するチームを対象に実施。そのほか各審査グループから勝ち抜いた全12チームがファイナルコンテストに進出。その後、観客による投票が行われ各賞が決定する。



令和元年度は、にっぽんど真ん中祭りのほか、瑞浪バサラカーニバルや四日市よさこい祭りなど、県内外で行われたイベントに多数出演。イベントごとにテーマを設けて衣装や振り付けを変えるなど、趣向を凝らしている。



チームが最大限の力を発揮できるよう みんなのやる気を引き出すのが僕の役目。

みんなが本気で打ち込める
サークルを目指したい。

よさこいの魅力は、地域色豊かなオリジナル曲にのせて創作ダンスを披露する各チームの個性と、見る人を魅了するエネルギーあふれる演舞。先輩方の踊る姿を見て、「やるからには本気で打ち込めることをしたい」と思い、岐阜大学 騒屋に入りました。

現在は約100名が在籍し、イベントなどで踊りを披露する以外は衣装班や曲班などのパートに分かれて活動しています。振り付けや衣装デザイン、音楽のアレンジや全体の構成など、すべて自分たちで考えられるのがよさこいの醍醐味。各班のリーダーがメンバーの意見を集約し、オリジナル演舞を作り上げます。部活ではなくサークルなので、メンバー全員のモチベー

ションを高めることに難しさを感じていますが、最大の目標は8月に行われる「どまつり」のファイナルコンテストに進出すること。メンバー間の温度差を無くし、各班の力を最大限に発揮しないと勝ち抜けません。代表としてどのような言葉をかければ皆が動きやすいかを考えて行動するよう心掛けています。

チームの士気を上げ、
新しい歴史を作りたいです。

チームの意識を高めるために気を付けているのは、自分を律することです。以前は、自分の主張を通すことを優先していましたが、それではチームの士気は上がりません。相手の立場や気持ちを想像し、モチベーションを高める話し方や行動を身に付けることが

大切だと学びました。

よさこいで重要なのはみんなの息を合わせることに。強豪チームは、掛け声や隊列が見事に揃っていて、その美しさに圧倒されます。現在目標としている「どまつり」でのファイナルコンテスト進出は、歴代の先輩方も達成されていません。踊りの技術はもちろんですが、普段のコミュニケーションから意識を変えて、僕たちの代で新しい歴史を作りたいです。

自分の気持ちよりチーム全体のバランスを優先したり、メンバーの意見を尊重し方向性をまとめたり、代表を務めたことで精神的にも鍛えられ、視野も広がりました。「どまつり」が終わったらサークルは引退。それまでにできることを全部やりきり、チームの力を出し切って入賞を勝ち取りたいと思います。



顧問の別府哲教授は、青木さんを「エネルギーで、100名近くの大所帯をよくまとめている」と高く評価する。「近年は、地域の企業や学校などからオファーをいただいて、よさこいを披露する機会が増えました。学生時代から学外の方とも積極的に交流を持つことで視野を広げ、豊かな感性を育てほしい」と話す。



岐阜大学教育学部
別府 哲 教授

毎週2回、班ごとに分かれて学内で練習を行う。振り付けは、曲を止めながら動きを確認し、何度も繰り返し行うことで体に覚え込ませる。

第54回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しました

令和元年11月6日(水)

第54回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しました。本学は「環境ユニバーシティ宣言」をした11月を環境月間と定め、関連行事を毎年開催しています。今年度は東京理科大学栄養教授と光触媒国際研究センター長を兼任する藤嶋昭氏を講師に迎え、「科学を楽しく-光触媒を中心に-」と題した講演を行いました。今後も環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に展開していきます。



海外留学フェア2019秋を開催しました

令和元年11月13日(水)

岐阜大学グローバル推進機構の主催で「海外留学フェア2019秋～広げよう留学の輪～」を開催しました。第1部は留学プログラムや奨学金制度に関する説明会を実施。第2部では、留学経験者による、留学プログラムの説明や体験談の報告が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。本フェアを通じて、学生の留学プログラムへの関心が高まり、留学が促進されることが期待されます。



岐阜大学の学生が各種表彰を受けました

岐阜大学の学生および学生チームが各種表彰を受け、その成果を森脇学長に報告しました。

岐阜大学学生チームがアジアブリッジコンペティション2019で入賞

令和元年8月24日(土)～
8月27日(火)



岐阜大学学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2019 Giant Jamboreeでブロンズメダルを受賞

令和元年10月31日(木)
～11月4日(月)



岐阜大学学生チームが2019郡上素材!新商品開発コンペで入賞

令和元年11月30日(土)



岐阜大学学生チームが第1回学生政策コンペで最優秀賞を受賞

令和元年12月21日(土)



教育学研究科2年の赤松諒一さんが2度目の「清流の国ぎふ栄誉賞」を受賞

令和2年2月14日(金)



秋のクリーンキャンパスを実施しました

令和元年11月20日(水)

環境月間行事の一環として、「秋のクリーンキャンパス」を実施しました。当日は、教職員や学生約650名に加え、岐阜県食品科学研究所および岐阜薬科大学の職員、緑化研究会「three trees」、環境サークル「G-amet」、岐阜大学生協「学生委員会」が清掃活動を行いました。集まったゴミの量が例年に比べて減少しており、大学構成員の環境に関する意識向上を見ることができました。



「eco検定アワード2019」エコユニット部門「優秀賞」を受賞しました

令和元年11月22日(金)

東京商工会議所で「eco検定アワード2019」の表彰式が行われ、岐阜大学はエコユニット部門で優秀賞を受賞しました。岐阜大学が行っている環境



活動 ①持続可能な教育・研究の場「グリーンキャンパス構想」②内部環境監査員の養成と学生の参画 ③環境講義・環境集中講義の開講 などが評価され受賞となりました。今後も環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に取り組んでいきます。

グローバル推進機構国際協働教育推進部門主催セミナーを開催しました

令和2年1月31日(金)

岐阜大学グローバル推進機構国際協働教育推進部門が主催するセミナー『インドは「やってみなはれ」先進国〜海外で働く・海外と働く〜』が実施され、株式会社インフォブリッジ・ホールディングス・グループの代表取締役・繁田奈歩氏の講演が行われました。インド工科大学グワハティ校およびマレーシア国民大学との4つの国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)の運営と国際協働教育の推進を図るため、今後もこのようなセミナーを開催していきます。



「環境ユニバーシティ 岐阜大学 環境報告書2019」が第23回環境コミュニケーション大賞“環境配慮促進法特定事業者賞”を受賞しました

令和2年2月19日(水)

本学の「環境ユニバーシティ 岐阜大学 環境報告書2019」が、第23回環境コミュニケーション大賞(環境省および一般財団法人地球・人間環境フォーラム共催)の環境報告書部門において“環境配慮促進法特定事業者賞”を受賞しました。本学はこの受賞をきっかけに、さらに環境への取り組みおよび情報開示の充実を推進していきます。



地方自治体と各種協定を締結しました

令和元年12月から令和2年3月にかけて4つの協定を締結しました。活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的に、瑞穂市・飛騨市・瑞浪市と連携に関する包括協定をそれぞれ締結。さらに、岐阜県内における気候変動適応に向けた取り組みを進めるため、岐阜県と共同で運営する「岐阜県気候変動適応センター」の設置に関する協定を締結しました。

瑞穂市と連携に関する包括協定を締結

令和元年12月24日(火)



岐阜県と岐阜県気候変動適応センター設置に関する協定を締結

令和2年1月17日(金)



飛騨市と連携に関する包括協定を締結

令和2年2月28日(金)



瑞浪市と連携に関する包括協定を締結

令和2年3月10日(火)



令和元年度学位記授与式、修了証書授与式を行いました

令和2年3月13日(金)・25日(水)

3月13日(金)、岐阜大学講堂にて、令和元年度岐阜大学大学院連合農学研究科および連合獣医学研究科学学位記授与式を行い、博士課程24名、論文博士4名が修了しました。

3月25日(水)に岐阜大学講堂にて、各学部及び各研究科の代表者のみで令和元年度学位記授与式を実施し、学部学生1,288名、大学院学生592名が卒業・修了しました。また、在学期間中に極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生16名と学術研究活動において特に顕著な業績を挙げ、学界または社会的に高い評価を受けた学生1名を表彰しました。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、長良川国際会議場における卒業生・修了生が一堂に会する式典は中止しました



多くの皆様から 岐阜大学基金へご寄附をいただき、 心よりお礼申し上げます。

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。

この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

基金による事業展開

岐阜大学における学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などを充実・発展させるために、皆様方から寄附頂いた寄附金により、次のような事業の充実に図ります。

学生支援事業	深い専門知識、広い視野と総合的な判断力を備えた人材育成のための支援
国際交流支援事業	国際社会で活躍できるグローバルな学生を育成するための海外研修及び国際交流関係事業等の支援
教育研究活動支援事業	独創的・先進的な研究を行い、成果を絶えず社会に発信するための支援
地域貢献活動支援事業	地域社会・国際社会からの信頼と期待に応えるための支援
キャンパス環境整備事業	キャンパス内の環境整備
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生のための支援
新型コロナウイルス感染症 緊急学生支援事業	保護者等の家計急変や学生のアルバイト収入減など、経済的に困窮している学生のための支援

ご寄附者芳名録

令和元年10月から令和2年2月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、3月以降にご寄附いただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。

今後とも、岐阜大学基金へより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人

安藤 征博 様	亀谷 正明 様	田中 需 様
石塚 達夫 様	北野 良樹 様	玉井 裕也 様
伊藤 弘和 様	久野 幸信 様	中村 剛一 様
稲垣 克己 様	榊原 裕二 様	牧 栄伸 様
岡田 敏嗣 様	高橋 睦 様	見山 政克 様

法人・団体等

岐阜大学消費生活協同組合 様
ミニストップ(株) 様

岐阜大学基金の詳細については、Webをご覧ください。
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp

わたしたちは、
メ〜テレの中核を担う
映像制作会社です。



〒460-0016 名古屋市中区橋2-10-1メ〜テレ6階

名古屋テレビ映像



テレビ関連の映像制作以外に、地上波テレビの番組制作で培ったスキル / ノウハウを使って、クライアント様のニーズに合わせた戦略で広報活動コンテンツ制作のお手伝いをします。

テレビ / ラジオ / WEB / CM / イベント制作 / 会社 / 学校 / 展示会式典運営 / お店紹介動画 / 商品 PR 動画 / 展示会動画及び、社史動画 / 観光 PR 動画 / デジタルマッピング / 街角広告ビジョン映像制作 / 音楽制作 / ヴァーチャル映像など



地域密着フリーマガジン

aun
「あうん」

もっと知りたい、岐阜のこと。

aunは「もっと知りたい、岐阜のこと。」をコンセプトに、岐阜市のまちなかをはじめ、岐阜県内全域のすてきな店や人々、こだわりのものなどを、丁寧な取材記事と美しい写真でつづる季刊のフリーマガジンです。

WEBマガジンも
更新中



年4回発行！
(3・6・9・12月
下旬予定)



Take Free

設置場所

岐阜大学 / アクティブG / 岐阜シティ・タワー43 /
岐阜市内の商店 / 公共施設 / 道の駅 など

編集・発行 西濃印刷株式会社 ☎058-263-4101

※社会情勢の変化により発行時期を変更する場合があります

岐大のいぶきへの 広告掲載について

岐阜大学広報室では、広報戦略に資することを目的に、広報誌「岐大のいぶき」の広告を募集しております。詳しくは下記にお問い合わせいただくか、QRコードのリンク先をご覧ください。

【お問い合わせ先】

国立大学法人東海国立大学機構
岐阜大学管理部総務課広報室広報係
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL:058-293-2009 / 3377 FAX:058-293-2021

e-mail:kohositu@gifu-u.ac.jp



このニュース、知っとる？

地元のことなら。
岐阜新聞社 岐阜放送



※このページは広告です。お問い合わせは各企業・団体までお願い致します

学生支援プラン ～夢をあきらめるな～

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、本学の学生の中にも保護者等の家計急変や自身のアルバイト収入の減少などにより、経済的に困窮する学生が急増しています。

そこで、今回は、親元を離れ大学生活を送っている学生が学業に安心して専念でき、前向きに、夢をあきらめることなく学生生活を送れるよう、岐阜大学独自の「学生支援プラン」として生活支援金の給付を実施することになりました。

給付金額 **生活支援金として3万円**

申請期間 **令和2年6月17日(水)まで**

岐阜大学では他にもさまざまな支援を行っております。
詳細は岐阜大学 Web サイトで確認ください。



学生支援プランの実施に伴う寄附のお願いについて

岐阜大学では上記の学生支援プランの実施にあたり、教職員および卒業生、一般の方々を対象に岐阜大学基金への寄附を呼びかけています。皆様からの温かい支援を心よりお待ちしております

お申し込み方法等は
岐阜大学 Web サイト
で確認できます。



アンケートに答えて 岐阜大学の地下水「のみやすい」を GET!!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。

岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.39」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に岐阜大学の地下水を使った**「のみやすい(500ml 4本)」**を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切:

令和2年10月30日(金)必着

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※重複での応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、“伊吹おろし”と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

■「岐大のいぶき」についてのご意見・感想をお待ちしております。

送付先 / 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学管理部総務課広報室広報係
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL 058-293-2009 / 3377 FAX 058-293-2021
Email kohositu@gifu-u.ac.jp

岐大のいぶきは Web からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式
Twitterを
はじめました。



こちらからアクセス!

TWITTER, TWEET, RETWEET and the Twitter logo are trademarks of Twitter, Inc. or its affiliates.



MAKE NEW STANDARDS.
**東海国立
大学機構**



岐阜大学